

忍者をディープに味わう

忍者は、その神秘的で超人的なイメージから幅広い年齢層に親しまれ、古くから各地で観光資源として活用されている。

県内では伊賀市にある「伊賀流忍者博物館」が有名だ。忍者屋敷や忍術実演ショー、手裏剣打ち体験等を目的に年間11万人超が訪れる。オープンしたのは60年以上前の1964年であるが、その人気が絶えない。

伊賀市では観光客の市内での滞在時間の延長や街なかへの回遊を促す目的で、参加者が忍者衣装を着て街を巡る「伊賀上野NINJAフェスタ」を毎年開催している。

これらの取り組みを更に深化させるべく、博物館や伊賀上野城のある上野公園エリアから駅や商店のある城下町エリアを結ぶ動線を「にぎわい忍者回廊」と位置づけ、官民連携手法により、民間ノウハウを取り入れた忍者体験施設や宿泊施設を整備する事業が進められている。

今月27日に忍者をテーマとしたアトラクションやホテル、レストラン等を備えた複合施設「万川集海」がオープンする。忍術書の名を冠したこの施設は、伊賀流忍者の真髄（しんずい）を「遊ぶ」「学ぶ」「食べる」を通してさまざまな角度から体験でき、より深い忍者体験を求める人をターゲットとしている。

施設を巡りながら音声ガイドにより忍びの教えを学ぶことができる「魔堅窟（まかたくつ）巡り」や、忍者装束を着用し、45種類の忍術から選んで体験できる「忍修殿」といった体験型コンテンツのほか、伊賀の食材が堪能できる忍者レストランや蒸気風呂付の宿泊施設などもあり、五感で伊賀流忍者を味わうことができる。

この施設ではこれまで味わえなかったディープな体験により、忍者の新たな魅力を発見できるはず。ぜひ一度訪れてみてはいかがだろうか。

（PPP/PFI事業部 主任研究員 水谷 幸資）